

国立民族学博物館 友の会ニュース

MINPAKU ASSOCIATES NEWSLETTER

「国立民族学博物館友の会」は「みんぱく（国立民族学博物館）」の活動を支援し、博物館を楽しく、積極的に活用するためにつくられました。

No. 277

2023.1▶2

発行日 2023 年 1 月 1 日
編集・発行 公益財団法人千里文化財団

吉田館長より新年のご挨拶



明けましておめでとうございます。
本年もどうぞよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症の収束がまだ見通せない中で、年明けとなりました。一方で、私たちの生活に向けた制限は、大幅に緩和されるようになってきています。これからは、この状態を「常態」として、改めて日々の生活を組み立てなおしていくことが、わたしたちに求められてくるようです。

みんぱくの活動も、ようやく、元の状態に復してきています。およそ三年間、文字通り「手も足も出ない」状況にあった研究者による海外でのフィールドワークも、一斉に再開されました。海外の研究者を招いた対面でのシンポジウムや研究集会も、活発におこなわれるようになって

謹んで新年のご挨拶を 申しあげます。

近年の予測できない出来事は、人類がかかえるさまざまな問題の困難さをあらためて浮き彫りにしました。これらの難題に向き合う上で、当財団では、国立民族学博物館友の会の活動等とおして、国立民族学博物館の研究や資料の蓄積を市民の皆さまに提供し、研究者と市民がともに考え行動する基盤を形成していくよう努力してまいります。今後とも引き続き変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

います。また、昨年の末からは、海外からの外交使節や、在日の各国大使館、総領事館の関係者の来訪が、目立って増えてきています。コロナ禍前に築きあげた、研究・博物館活動の国際的ハブとしてのみんぱくの位置づけが、実を結び始めていく証のように思えます。二〇二五年大阪・関西万博まで、あと二年半。一九七〇年大阪万博の最大のレガシーとして認知されているみんぱくへの期待は、これから、国内外でますます大きくなっていくものと予想されます。

みんぱくは、来年二〇二四年には、創設五〇周年を迎えることになります。ひとつの機関にとつて、五〇年を経た時期というのは、その半世紀にわたる歩みを振り返り、未来に向けた展望を開く上で、重要な節目になるものと思われまます。その節目にむけた、みんぱく五〇年史の編纂をはじめとするさまざまな事業の準備は、今年度に佳境を迎えます。

みんぱくにとつてのこの重要な時期にあたり、友の会の皆さまの引き続きのご支援を心よりお願いいたします。

新しい年が皆さまにとりまして実り多い年でありまますよう、お祈りしております。

吉田憲司

巡回展のご案内

ビーズ

——つなぐ かざる みせる——
国立民族学博物館コレクション

会期：～2023 年 1 月 15 日(日)
会場：渋谷区立松濤美術館

ビーズには、人類が積み重ねてきた歴史や文化が凝縮されています。一粒から無限に広がるビーズの世界をご堪能ください。

観覧料
大人800円、大学生640円、
高校生・60歳以上400円、小中学生100円
※ビーズ割引（ビーズ着用で適用）・
各種割引あり。

休館日
月曜日（※1月9日は開館）、祝日の翌日、年末年始



渋谷区立松濤美術館
<https://shoto-museum.jp/>



驚異と怪異

——想像界の生きものたち——

会期：2023 年 3 月 11 日(土)
～5 月 14 日(日)
会場：福岡市博物館 特別展示室

世界の人は常識や慣習から逸脱した「異」なるものを、どのように認識し、説明し、描いてきたのでしょうか。奇妙で怪しい、不気味だけれどかわいい、世界の靈獣・幻獣・怪獣が大集合！

観覧料
大人1,600円(1,400円)、中高生1,200円(1,000円)、
小学生800円(600円)
※()内は前売料金、各種割引あり。

休館日
月曜日



福岡市博物館
<http://museum.city.fukuoka.jp>



追悼 小山修三先生



千里文化財団の前理事長である小山修三(こやましゅうぞう)先生が昨年10月26日に逝去されました。小山先生は民族学、考古学を専門とし、オーストラリア先住民のアボリジニの人びとや青森市の三内丸山遺跡など、狩猟採集社会に関する調査・研究を続けてこられました。みんぱく開館当初より資料収集や刊行物への寄稿、特別展開催など、積極的な博物館活動にも努めてこられた小山先生は、会員のみなさまにとりまして、とくに親しみ深い研究者でいらっしゃいました。吹田市立博物館館長を経て、2013年より千里文化財団の理事長としてお力添えをいただきました。ここに謹んでお悔やみを申し上げます。

当財団の現理事長・中牧弘允(なかまきひろちか)先生が、web連載「理事長徒然草」に、小山先生への追悼文を寄せています。連載は千里文化財団のホームページ内で公開しています。

<https://www.senri-f.or.jp/tsuredure018/>



館内催し 会員先行予約のご案内

館内で開催する一部の催しには会員先行予約枠があります。該当期間中に友の会事務局までご連絡ください。

館内催しの詳細はこちら！

<https://www.minpaku.ac.jp/event/>



みんぱくゼミナール

会場 第4セミナー室、第5セミナー室 他(定員180名・第4セミナー室以外は中継会場)

第530回

家族農業の軌跡をたどる

——オーストリアの調査から

講師 森 明子(民博教授)

日時 2月18日(土)13:30~15:00(開場13:00)

申込期間

■友の会先行受付(定員36名)

期間：1月16日(月)~20日(金)

■一般受付

期間：1月23日(月)~2月15日(水)

・当日参加受付(定員36名)

第531回

【特別展「ラテンアメリカの民衆芸術」関連】

民衆芸術

——ラテンアメリカの人びとの創造力と批判力

講師 鈴木 紀(民博教授)

日時 3月18日(土)13:30~15:00(開場13:00)

申込期間

■友の会先行受付(定員36名)

期間：2月13日(月)~17日(金)

■一般受付

期間：2月20日(月)~3月15日(水)

・当日参加受付(定員36名)

お申込方法

申込先着順、参加無料。
本人を含む2名まで。
当日11時から入場整理券を会場前にて配布します。

■友の会先行受付

利用対象：維持会員、正会員、家族会員、ミュージアム会員、みんぱくフリーパス

【申込先】千里文化財団友の会事務局

電話 06-6877-8893 (9時~17時、土日祝を除く)

■一般受付

みんぱくホームページ内のイベント予約サイトよりお申し込みください。

東京講演会 実施報告

■第1300回 ■2022年10月23日(日) 会場：モンペル御徒町店

「企画展『海のからしアート展——モノからみる東南アジアとオセアニアに関連』」

島世界に進出したサピエンスと海のあるくらし

藤田 祐樹(国立科学博物館研究主幹)、小野 林太郎(民博准教授)

アフリカ大陸に出現したホモ・サピエンスは、一〇万年前頃から地球上のあらゆる地域へと拡散を開始しました。サピエンスが日本列島を含む海域アジアに到達するのは、今から五〜四万年前頃だと考えられています。島世界で生き抜くには、渡海の技術や限られた資源を利用するための知恵を開発する必要がありました。本講演会では「サピエンスの海洋適応」をテーマに、東南アジアやオセアニアの島々、琉球列島への移住について、考古学の研究成果を踏まえながらご紹介いただきました。

四〇〇〇年ほど前には、オーストロネシア諸語を話す人びとの祖先集団が、ミクロネシアやポリネシアの島々にも拡散をはじめました。高い航海技術のほか、農耕や家畜飼育、土器製作の技術を携えていたことが、遠く離れた無人の島々への移住を可能にしたと考えられています。琉球列島の旧石器人は、三万年前までに南方から渡来した可能性が高いと考えられています。島々が離れているにもかかわらず、各地で旧石器時代の遺跡が見つかっています。比較的小さな島への移住であつたことも、関心を集める一因となりました。当時の琉球列島には大型の陸上動物はいませんが、例えば沖縄島のサキタリ島遺跡では河川に生息するカニや貝類を食用し、海岸で獲れる貝殻で道具や装飾品を製作するなど、島の事情にあわせてくらしぶりを認めることができます。

東南アジアやオセアニアの島々への移住には、大きく分けてふたつの段階があつたと考えられています。オーストラリアでは約五万年前にさかのぼる旧石器時代の遺跡が発見されていますが、当時はニューギニア島と陸続きで、サフル大陸と呼ばれる大陸を形成していました。サフル大陸へと移住するには、現在の東インドネシアにあたるウォーレスシアと呼ばれる地域から、八〇キロメートルほどの距離を航海する必要がありました。サフル大陸へと渡ることのできた知識や技術は、ウォーレスシアで発達したのではないかという仮説を背景に、近年、この地域での旧石器時代の遺跡の発掘がさかんにおこなわれています。

約一万年前になると、今度は九州から縄文人が南下してきます。温暖化が進む六〇〇〇年ほど前には、サンゴ礁で獲れる海の魚や貝を食用するようにもなりました。また、各地で同じ土器文化が見つかっていることも、島々で活発な行き来があつたことを物語るものだと考えられます。(文・事務局)

1・2月のイベントスケジュール

- 友の会講演会 [オンラインは要事前申込]
1/7(土)中川理、2/4(土)堀田あゆみ(※)
- みんなくゼミナール [要事前申込]
1/21(土)西尾哲夫・岡本祥子・岡本尚子
2/18(土)森明子
- みんなくウィークエンド・サロン
1/29(日)韓敏、2/12(日)平野智佳子
2/26(日)樫永真佐夫
- みんなく映画会 [要事前申込]
1/14(土)「ハニーランド 永遠の谷」
- その他の催し
1/5(木) みんなく友の会 オンライン新年会
[要事前申込]
1/7(土)・1/8(日)
年末年始イベント「みんなく うさぎさがし」

【館外での催し】

■巡回展

1/15(日)まで 会場:渋谷区立松濤美術館
国立民族学博物館コレクション
「ピーズ——つなぐ かざる みせる」

●友の会東京講演会 [要事前申込]

1/28(土) 会場:JICA地球ひろば
末森薫

2/26(日) 会場:モンベル御徒町店
八木百合子

●みんなく映像民族誌シアター [要事前申込](※)

会場:シアターセブン

1/22(日)

「それでも獅子は旅を続ける

——山本源太夫社中 伊勢大神楽日誌」

1/28(土)

「マレーシア クランタンの影絵人形芝居」

2/5(日)「漢族の祖先祭祀と祖廟」

2/11(土・祝)「オアシス都市のくらし」

◆※印は会場とオンライン配信の併用で実施する催しです。詳細はみんなくならびに友の会のホームページをご確認ください。

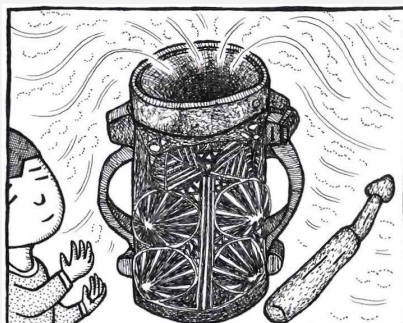
◆イベントの参加には必ず会員証をご持参ください。

◆◆◆ 年末年始の休館・休業のお知らせ ◆◆◆

国立民族学博物館と友の会事務局は2022年12月28日(水)から2023年1月4日(水)まで休館・休業いたします。

ばくのみんなく日記

画・中川洋典



十二月十三日(火)
十九世紀ノア
フガニスタン
フヒーミルデス。
白ノ中カラ香
バシイ匂イガ
酒ホッテ来ソ
ウデス。

友の会講演会のご案内

お申し込みには、友の会ホームページ内の受付フォームをご利用ください。

■大阪

会場、オンラインともに事前申込先着順です。友の会会員の方は、会場参加(定員90名)に限り、事前申込が不要です。当日、会場受付にて会員証をご提示ください。

■東京

事前申込先着順です。オンライン配信はございません。

※大阪・東京ともに会場での聴講は会員以外の方もご参加いただけます(参加費500円)。

友の会講演会の詳細・受付フォームはこちら！

https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/



大 阪

第533回

モンゴル遊牧民の“ルームツアー”

——モノの配置にみる生存戦略

講 師: 堀田 あゆみ(大阪国際大学非常勤講師)

日 時: 2月4日(土)13:30~15:00(開場13:00)

参加方法: ①第5セミナー室での参加 ②オンライン(ライブ配信)での参加

モノとのつき合い方は生業や自然環境、文化によってもさまざまです。「必要最小限」のモノで暮らしていると語れがちなモンゴル遊牧民ですが、その実態は「何がいくつあるか」ではなく「どうあるか」に着目することではじめてみえてきます。本講演では遊牧民一家の部屋(ゲル)紹介を通して、その実態と生存戦略に迫ります。

※講演会終了後、中央・北アジア展示場のゲルを見学します(定員20名・要事前申込)。

第534回

中国における宗教と風紀

——回族によるアルコール排斥運動の展開

講 師: 奈良 雅史(民博准教授)

日 時: 3月4日(土)13:30~15:00(開場13:00)

参加方法: ①第5セミナー室での参加 ②オンライン(ライブ配信)での参加

中国において宗教活動は政府の管理統制下にあります。こうした状況下、イスラーム系少数民族の回族は、状況に応じて中国政府の社会政策を部分的に取り入れながら、宗教活動を展開してきました。本講演では、回族によるアルコール排斥運動の事例から、多義的なものとして立ち現れるイスラーム的な風紀のあり方に迫ります。

東 京

第131回

古代エジプト文明の新たな研究拠点

——大エジプト博物館への日本の支援

講 師: 末森 薫(民博准教授)

日 時: 1月28日(土)13:30~15:00(開場13:00)

会 場: JICA地球ひろば セミナールーム600(定員40名)

※オンライン配信はございません。

ギザの三大ピラミッドの近くに、古代エジプト文明の新たな研究拠点「大エジプト博物館」が建設中です。建物は完成目前であり、多くの来館者を迎えるべく展示の準備などが進められています。世界最大規模の博物館の建設にあたって、日本は資金援助だけでなく、人材育成や技術支援を進めてきました。その背景や成果をお話します。

第132回

ペルーの民芸品制作と職人たちのいま

講 師: 八木 百合子(民博准教授)

日 時: 2月26日(日)13:30~15:00(開場13:00)

会 場: モンベル御徒町店 4階サロン(定員40名)

※オンライン配信はございません。

ペルーには、地方色豊かな民芸品が数多く存在します。民芸品制作は、時代の流れのなかで作風や技法が変わるだけでなく、それらがもつ社会的な意味や位置づけも大きく変化してきました。とくにここ数年は、国の文化遺産に指定し保護・育成する動きも高まっています。この講演会では、ペルーの民芸品制作の歴史とその制作に携わる現代の職人たちの取り組みについて紹介します。

■第529回■2022年10月1日(土)

ポップカルチャーからみる
インドネシア社会

金悠進 (民博機関研究員)

インドネシアの音楽といえば、ガムランやクロンチョン、ダンドウットといった土着的な音楽が有名ですが、ポップやロックといった現代的なポップラー音楽も人気です。本講演では、インドネシア文化研究の傍流ともいえる欧米化されたポップ／ロックを切り口に、同国の政治社会的側面と文化との関わりを検討しました。

インドネシアでは、政治体制や社会階層と音楽文化が密接に関連しています。一九六〇年代前半、初代大統領スカルノは、民族主義的な姿勢を強め、ロックを文化帝国主義だと批判し、ロックの演奏を規制しました。一方で、冷戦下に反共を掲げたスハルト第二代大統領は、西側先進国との良好な関係のもと、ロックの流入を緩和し、都市部では欧米に影響を受けたポップやロックが人気となりました。

他方で、こうした外来文化の流入は、国内における土着文化との摩擦も引き起こしました。中上層を中心とするロック・ファンは、下層に支持されるダンドウットを「田舎者」と軽蔑するなど、階層間の格差が、音楽



インドネシアのラッパー (左) と私 (右)
撮影・Frans、2019年

ジャンルの選好に反映されるようになりました。

最近では、ミレニアル世代の若者たちが、かつて「洋楽の模倣」として認識されていた自国の過去のポップ音楽を「インドネシアらしい音楽」として再評価するなど、新たな現象が表れています。背景には、都市中間層の拡大やインターネットの普及といった社会構造の変容、メディア環境の変化に加え、レコードの保存・公開といったアーカイブの実践などが挙げられます。

■第530回■2022年11月5日(土)

「企画展『海のくらしアート展』——モノからみる東南アジアとオセアニア関連」
カヌーとくらし——海に生きるオセアニアの人びと

須藤健一 (堺市博物館館長、国立民族学博物館名誉教授)

台湾にくらしていた南島語族の人びとは、今から三三〇〇年前に太平洋へ進出し、島じまを発見・定着しました。「太陽の出る東方に生命の源と島がある」と信じて、北東貿易風と東からの海流を乗り越える苦難の航海でした。

その乗り物は、二つの船体を横木でつないで甲板と小屋をそなえたダブル・カヌーです。一艘に五〇人が乗船し、航海食料と新天地での生活に必要な物の苗や家畜をのせ、船団を組んでの計画航海だったと想定されます。タヒチから四五〇〇キロ北のハワイへの移住が行われたのは、今から一〇〇〇年前のことです。その航海を裏づけるマストや舷側板などがタヒチ近くの島で一九七九年に発掘され、全長二八メートルの一〇世紀のダブル・カヌーであることがわかりました。しかし、この種の大規模カヌーは一九世紀までに姿を消してしまいました。

ハワイでは、タヒチを目指す古代カヌー・ホクレア号を復元します。その伝統航海術師に選ばれたのが、チェエエメ二号の故郷、サタウル島のマウ・ピアイルクです。マウは一九七六年六月にホクレアを見事にタヒチへと導き、二万人ものタヒチ人から熱狂的な歓迎を受けました。これを機にオセアニアでは古代カヌーの復元ブームが巻き起こりました。

ホクレアはその後、祖先が挑んだ古代の移住航海を成しとげ、また日本訪問や二〇一四〜一七年には世界周航に成功しました。ハワイでは今、伝統航海術によるカヌー航海をとおして人類と海のつながりを見直す「マラマ・ホヌア（地球をいたわる）」の海洋教育がさかんでいます。



タヒチや世界周航の航海を成しとげ、海洋教育をささえるホクレア号
Ben R. Finney, *Hokule'a*, New York: Dodd, Mead & Company, 1979

本紙掲載の情報は、2022年12月20日時点で決定している内容です。新型コロナウイルス感染症の影響等により急遽予定を変更する可能性があります。

お問い合わせ、お申し込みはこちら

友の会はいつでも、どなたでもご入会いただけます。
国立民族学博物館友の会
公益財団法人 千里文化財団

〒565-8511

大阪府吹田市千里万博公園10-1 (国立民族学博物館3階)

電話：06-6877-8893 (平日9:00~17:00)

FAX：06-6878-3716

e-mail：minpakutomo@senri-f.or.jp

みんぱく友の会LINE公式アカウント 友だち募集中

友の会が企画する刊行物やイベント、会員先行予約のある館内催しの情報を定期的にお届けします。
会員以外の方のご登録も大歓迎です！



みんぱく友の会
ホームページ
https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/



みんぱく友の会
Facebook
<https://www.facebook.com/minpakutomo/>